

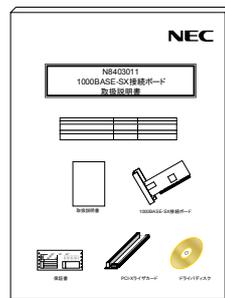
本取扱説明書を熟読し、大切に保管してください

# N8403-011 1000BASE-SX 接続ボード 取扱説明書

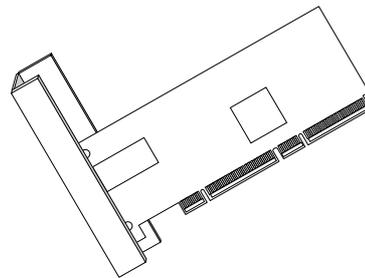
## 構成部品一覧表

本製品には以下のものが添付されております。確認してください。

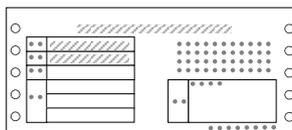
品名	数量	備考
1000BASE-SX 接続ボード	1	
PCI ライザカード	1	
1000BASE-SX 接続ボード用ドライバ CD	1 式	・コンパクトディスク 1 枚 ・ソフトウェアのご使用条件
保証書	1	
N8403-011 1000BASE-SX 接続ボード 取扱説明書	1	本書



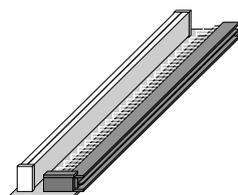
取扱説明書



1000BASE-SX接続ボード



保証書



PCIライザカード



ドライバCD

## 目次

**\*必ずお読みください\***

はじめに .....	i
重要注意事項 .....	ii
注意事項 .....	vi
1. アダプタの外観 .....	1
2. 本体装置へのアダプタの取り付け .....	3
3. ネットワークケーブルの接続 .....	5
4. ドライバのインストールとアダプタの設定 .....	6
4.1. アダプタを取り付ける前に .....	6
4.2. ドライバのインストールを始める前に .....	6
4.3. Windows 2000®をご使用の場合 .....	7
4.4. WindowsServer 2003®をご使用の場合 .....	17
5. トラブルシューティング .....	27
5.1. アダプタがネットワークに接続できない場合 .....	27
5.2. アダプタのテスト .....	28
5.3. 一般的な障害とその対処方法 .....	29
6. 技術情報 .....	30
6.1. PCIインストレーションのヒント .....	30
6.2. 配線について .....	31

Microsoft®, Windows 2000®, Windows Server 2003®は米国 Microsoft 社の登録商標です。

## はじめに

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換等を行うことは、禁止されています。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一お気づきの点や、ご不明の点がありましたら、販売店または弊社までご連絡ください。
4. 本製品を運用した結果の影響については、上記3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されています。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ、基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

## NEC Corporation 2004

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。

## ◆輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合は、当社は一切の責任を負いかねます。  
また、当社（海外 NEC 含む）は本製品に関し、海外での保守／修理サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

## ◆情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 重要注意事項

ご使用前には以下の事項を必ずお読みください

## 安全上の注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



### 情報

この表示の欄は「運用上障害が発生する可能性が想定される」内容や、その他「機器を正しくご使用いただくための指示・情報」です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	発火の可能性が想定されることを注意喚起した内容です。
	感電の可能性が想定されることを注意喚起した内容です。
	特定しない一般的な行為の禁止を示します。
	必ず、電源コードをコンセントから抜くように指示した内容です。

 <b>警告 必ずお守りください</b>	
 <b>禁止</b>	<p>人命に関わる業務や、高度な信頼性を必要とする業務には使用しない。本ボードは、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組込やこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されていません。これらの設備や機器、制御システムなどに本ボードを使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。</p>
 	<p>保守員以外の方は、本 N8403-011 アダプタの分解・修理・改造などを行わないでください。怪我や感電をするおそれがあります。</p>
	<p>本ボードのお手入れの際は、水などで洗わないでください。感電するおそれがあります。故障した場合は、販売店または保守員に連絡してください。</p>
	<p>本製品は、クラス 1 レーザ光線を使用して通信しています。このレーザ光線は、人体への影響はほとんどありませんが、ケーブルを接続していない場合は必ず付属のゴムキャップをはめ、コネクタ端子を保護してください。また、動作中は LAN ポートをのぞきこまないでください。</p>
	<p>本体装置の電源コードの接続が不完全なまま使用しないでください。</p>
 	<p>電源コードを正しくコンセントに接続してお使いください。ショートや発熱により感電や火災をおこすおそれがあります。</p>
  	<p>故障または異常な状態で使用、放置しないでください。感電や火災をおこすおそれがあります。                  万一、煙、異音、異臭などが生じた場合、直ちに本体装置の <b>POWER</b> スイッチを <b>OFF</b> にして、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または保守員に連絡してください。</p>

 <b>注意</b> 必ずお守りください	
	濡れた手で本体装置の電源コードを抜き差ししないでください。感電するおそれがあります。
	本 N8403-011 アダプタを、本体装置への取り付け・取り外しをするときには、必ず、アダプタを実装する CPU ブレードを抜いてから行ってください。感電するおそれがあります。
 	本体装置の電源は、本体装置で指定された規格の電源を使用してください。感電や火災をおこすおそれがあります。
	CPU ブレードへの N8403-011 アダプタの取り付け・取り外しを行うとき、および、ブレード収納ユニットへ CPU ブレードを取り付けるときに、指をはさんだり、ぶついたりしないように注意してください。
	本製品は、各自治体の条例に従って廃棄してください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。
	本製品を、他人に譲渡する場合は本書および添付品すべてを必ず一緒に渡してください。



**注意 必ずお守りください**

以下の操作ミスに注意してください。これらの操作ミスによる N8403-011 アダプタまたは本体装置(CPU ブレードおよびブレード収納ユニット)の破損に関しては保証いたしません。

- 本 N8403-011 アダプタを本体装置に取り付けたり取り外したりする作業は、アダプタを実装する CPU ブレードを取り外した状態で行ってください。N8403-011 アダプタおよび、本体装置を破損する危険があります。
- 静電気による部品の破壊を防ぐため、N8403-011 アダプタに触れる前には、必ず人体の放電をしてください。
- 本 N8403-011 アダプタの LAN ポートや、各部品の端子部、およびアダプタ上で塗装されていない金属部分には、決して触れないでください。汚れや腐蝕等により、接触不良が発生するおそれがあります。また、濡れた手や汚れた手で触れないでください。
- 本 N8403-011 アダプタをスムーズに挿入できない本体装置があるかもしれません。その場合、挿入の際に N8403-011 アダプタ、および本体装置を傷つけないように注意してください。
- 本 N8403-011 アダプタを拡張スロットに挿入する際、ブラケットの先端が本体装置の他の部位（他の部品、ボードなど）に触れないようにご注意ください。破損するおそれがあります。

故障した場合は、販売店または保守員に連絡してください。



**注意 必ずお守りください**

- ケーブルは本ボードのインタフェースに適合するものを使用し、接続先をよく確認した上で接続してください。障害が発生するおそれがあります。
- ケーブル接続時は、カチッという音がするまでケーブルコネクタを挿入してください。
- 接続ケーブルを踏んだり、重いものを乗せるなどの機械的なストレスをかけたり、熱などを加えないようにしてください。またケーブルを取り外す時はロックを外し、コネクタ部分を持って真っ直ぐに引き抜いてください。障害が発生するおそれがあります。

故障した場合は、販売店または保守員に連絡してください。

## 注意事項

1. 本製品に添付のドライバソフトは、以下の OS をサポートします。  
N8403-011 アダプタをご使用の際には、必ず添付のドライバソフトにて、アップデートしてください。

Windows 2000®(サービスパック 4 以上)

Windows Server 2003®

2. Linux で使用される場合は、以下のいずれかを使用し、手順に従ってインストールしてください。

- ・ NEC が提供する、ご使用になる OS に添付された媒体およびマニュアル
- ・ NEC の Web サイトで提供される修正モジュール

3. N8403-011 を CPU ブレードに取り付ける前に以下の作業が必要です。

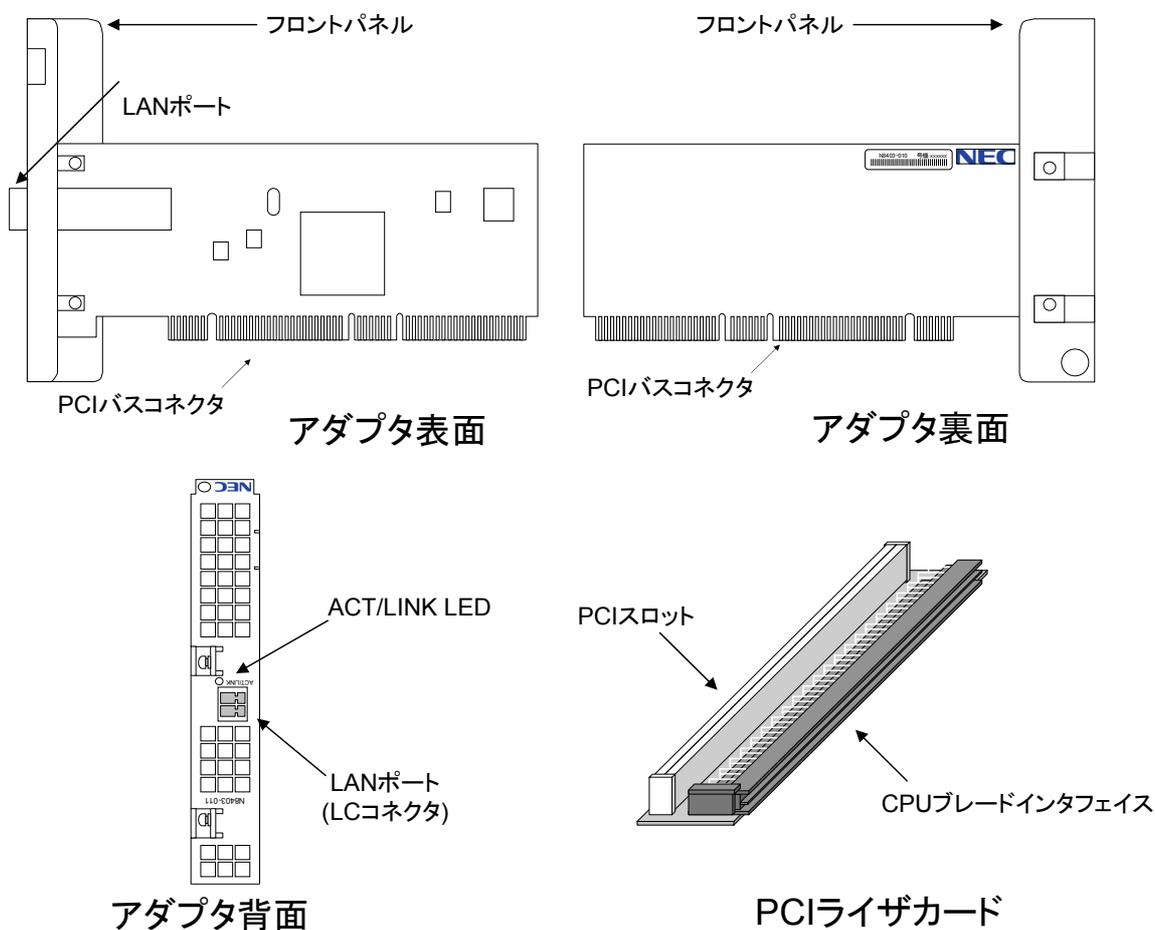
- ・ Intel®PROSet/PROSetII の削除
- ・ オンボード LAN のドライバ更新

本書の「4. ドライバのインストールとアダプタの設定」(6 ページ)に示す手順に従って、Intel®PROSet/PROSetII の削除およびオンボード LAN のドライバを更新してください。

なお、本作業は「ターミナルサービス(TS)」または「Deployment Manager(DPM)」からはできません。CPU ブレード本体上で作業を実施してください。

## 1. アダプタの外観

本アダプタの外観、名称および位置は以下の通りです。



- **LAN ポート**

ネットワークに接続するためのコネクタです。コネクタ形状は“LCタイプ”です。接続できるケーブルの種類および接続方法については、「3.ネットワークケーブルの接続」(5ページ)を参照してください。

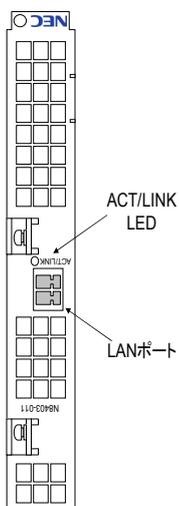
- **PCI バスコネクタ**

PCI バスコネクタを、本体装置の PCI 拡張スロットへ実装します。なお、本アダプタは、64bit PCI / Rev2.2 および PCI-X(133MHz 以下)に対応し、+5V/+3.3V ユニバーサル仕様となっています。

- **PCI ライザカード**

CPU ブレードと N8403-011 を接続するためのライザカードです。PCI (または PCI-X) スロットに N8403-011 アダプタを取り付けてから、CPU ブレードインタフェースを CPU ブレードのインタフェースに接続します。

● LED



	状態	意味
ACT/ LNK	点灯	リンク相手と正常に接続しています。 (Link 確立)
	点滅または 点灯	データの送受信があることを示しています。点滅周期はトラフィック量に応じて変化します。
	消灯	リンク相手との正常に接続できていません。(Link 未確立)

## 2. 本体装置へのアダプタの取り付け

	<p>アダプタを取り付ける前に以下の作業が必要です。</p> <p>「4. ドライバのインストールとアダプタの設定」(6ページ)に従って作業してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンボードLANのドライバ更新</li> <li>・ Intel®PROSet/PROSetIIの削除</li> </ul>
	<p>ブレードサーバの機構についての基本的な取り扱いについては、CPUブレードおよびブレード収納ユニット付属の取扱説明書を参照してください。</p>

1. カードを取り付ける CPU ブレードをシャットダウンして電源を OFF にします。
2. ブレード収納ユニットから CPU ブレードを取り外します。

 <b>警告</b>	
	<p><b>高温に注意してください</b></p> <p>本体装置の電源をOFFにした直後は、内部の部品が高温になっています。カバーは、十分時間をおいて内部が冷めたことを確認してから取り外してください。</p>

3. CPU ブレードに他の PCI ボードが既に装着されている場合、PCI ライザカードごと他の PCI ボードを CPU ブレードから取り外します。
4. CPU ブレードを、ほこりが少ない静電気防止処理が施されたシートの上に置きます。
5. 本製品に添付されている PCI ライザカードの PCI スロットに、N8403-011 アダプタをしっかりと固定されるまで押し込んで装着します。
6. N8403-011 アダプタを装着した PCI ライザカードの CPU ブレードインタフェース部分を、CPU ブレードのライザカード用コネクタ端子部分にあわせて、確実に差し込みます。

7. CPU ブレード添付のネジ1本を用い、CPU ブレードのフロントパネルに N8403-011 のフロントパネルを固定してください。

 <b>警告</b>	
	本体装置の内部や、アダプタには突起状の部品が含まれておりますので、取り付ける際には十分注意してください。

8. CPU ブレードをブレード収納ユニットに差し込み、CPU ブレードの電源を ON にします。

 <b>警告</b>	
	<b>警告：レーザ光線を使用しています</b> N8403-011は、クラス-1レーザ光線を使用して通信しています。このレーザ光線は、人体への影響の低いレベルのものですが、ケーブルを接続していない場合は必ず付属のゴムキャップをはめ、コネクタ端子を保護してください。また、動作中はLANポートをのぞきこまないでください。

9. BIOS セットアップユーティリティを起動して[Advanced]メニューの[Reset Config Data]を[YES]にします。

### 3. ネットワークケーブルの接続

本 N8403-011 アダプタの LAN ポートにネットワークケーブル (MMF(マルチモードファイバ)ケーブル) のコネクタを接続します。

ケーブルの種類によっては送信・受信のケーブルが分離しているものがあります。リンクが正常に確立できない場合は、ケーブルの送信側と受信側を入れ替えて接続してください。

なお、SMF(シングルモードファイバ)ケーブルはご使用になれませんので、ご注意ください。



1000BASE-SX の配線に関する要求条件および制限の詳細については、「6.2.配線について」(31 ページ)を参照してください。

次ページ以降を参照の上、オペレーションシステム別に説明する手順の通りにアダプタを設定してください。

## 4. ドライバのインストールとアダプタの設定

### 4.1. アダプタを取り付ける前に

本製品をCPUブレードに取り付ける前に、以下の作業が必要です。

- オンボードLANのドライバ更新
- Intel®PROSet/PROSet/IIの削除

この作業は「ターミナルサービス(TS)」または「Deployment Manager(DPM)」からはできません。  
CPUブレード本体上で実施してください。

作業手順はご使用のOSで異なります。ご使用のOSを確認して以下の項目の手順に従って作業してください。

Windows2000®の場合... 「4.3.Windows 2000®をご使用の場合」(7ページ)

WindowsServer2003®の場合... 「4.4.WindowsServer 2003®をご使用の場合」(17ページ)



Windows2000®で N8403-011 をお使いになる場合、N8403-011 はサービスパック 4 以降に対応していますので、サービスパック 4 以降が適用されていない場合は、適用してください。

※Linuxで使用される場合は、以下のいずれかを使用し、手順に従ってインストールしてください。

- ・ NECが提供する、ご使用になるOSに添付された媒体およびマニュアル
- ・ NECのWebサイトで提供される修正モジュール

### 4.2. ドライバのインストールを始める前に

N8403-011のドライバをインストールする前に、必ずCPUブレードにアダプタを取り付けてください。なお、N8403-011を取り付ける際には、必ずCPUブレードの電源をOFFにして、CPUブレードをブレード収納ユニットから抜き取ってから作業してください。

 <b>警告</b>	
	<b>高温に注意してください</b> 本体装置の電源をOFFにした直後は、内部の部品が高温になっています。カバーは、十分時間をおいて内部が冷めたことを確認してから取り外してください。
 	<b>アダプタを取り付ける際にはCPUブレードをブレード収納ユニットより抜いてください</b> 本アダプタをCPUブレードに取り付けるときは、必ずCPUブレードをブレード収納ユニットから引き抜いてください。 感電やアダプタまたは本体装置の損傷のおそれがあります。

### 4.3. Windows 2000®をご使用の場合

本節では Windows2000®をご使用の場合のドライバインストール手順を説明します。

まず、「4.3.1.オンボード LAN ドライバの更新と Intel®PROSet の削除」(8 ページ)に従ってオンボード LAN のドライバ更新および Intel®PROSet の削除を行います。

次に CPU ブレードに N8403-011 を取り付けます。この作業は「2.本体装置へのアダプタの取り付け」(3 ページ)に従ってください。

そして N8403-011 ドライバを、ドライバ CD を使ってインストールします。

このとき、以下の方法でインストールできますので、管理運用形態に応じてインストール作業を実施してください。

- CPU ブレードからインストールする場合  
→「4.3.2.CPU ブレードからインストールする場合」(10 ページ)をご覧ください。
- TS クライアントからインストールする場合  
→「4.3.3.TS クライアントからインストールする場合」(11 ページ)をご覧ください。
- デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合  
→「4.3.4.デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合」(12 ページ)をご覧ください。
- DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合  
→「4.3.5.DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合」(14 ページ)をご覧ください。

	アダプタを交換する場合は、一旦ドライバを削除してからドライバを再インストールしてください。 なお、ドライバを削除してしまうと、プロトコルの情報が消えてしまいますので、削除の前にネットワーク情報を控えておき、ドライバの再インストール後、あらためて設定してください。
---	--

	N8403-011の取り付け後、システム起動時に以下のメッセージが表示された場合は[キャンセル]ボタンをクリックして閉じてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>● [ディスクの挿入]ダイアログ</li><li>● [新しいハードウェア検出ウィザード]ダイアログ</li></ul>
---	---

	本ドライバはサービスパック4以上に対応しています。 サービスパック4が適用されていない場合は、適用してください。
---	---

### 4.3.1 オンボード LAN ドライバの更新と Intel®PROSet の削除

本製品を実装する前にオンボード LAN のネットワークドライバのバージョンを確認し、必要に応じてドライバを更新します。また、Intel®PROSet/PROSetII がインストールされている場合には削除します。

#### 【オンボード LAN ドライバのバージョン確認手順】

1. スタートメニューから[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を選択します。
2. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]を選択します。
3. [構成]ボタンをクリックします。
4. [ドライバ]タブを選択し、バージョンを確認します。

以下のバージョンと同じ、もしくは新しいバージョンの場合はドライバを更新する必要はありませんので、【Intel®PROSet/PROSetIIの削除手順】に進んでください。

Express5800/410Ea・420Laの場合	バージョン:	<b>7.0.26.0</b>
Express5800/420Maの場合	バージョン:	<b>7.2.17.0</b>

#### 【オンボードLANドライバの更新手順】

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置に本製品添付のドライバCDをセットします。
2. CPUブレードの画面において、コマンドプロンプトを起動します。
3. コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。

(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

##### 対象装置がExpress5800/410Ea・420Laの場合

```
install.bat□OBEL
```

##### 対象装置がExpress5800/420Maの場合

```
install.bat□OBMA
```

しばらくして“Finish”と表示されれば完了です。

4. システムを再起動してください。

### 【Intel®PROSet/PROSetII の削除手順】

※Intel®PROSet/PROSetIIがインストールされていない場合は、削除の必要はありません。

1. スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
3. [Intel®PROSet]または[Intel®PROSetII]ボタンを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
4. ダイアログボックスが表示されるので[はい]をクリックします。  
[Intel®PROSet]または[Intel®PROSetII]が削除されます。
5. [アプリケーションの追加と削除]のダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。
6. すべてのウィンドウを閉じます。
7. システムを再起動してください。

続いてN8403-011のドライバをセットアップしますので、N8403-011アダプタをCPUブレードに取り付けてください。

取り付け作業は「2.本体装置へのアダプタの取り付け」(3ページ)の手順を参照して実施してください。

### 4.3.2 CPU ブレードからインストールする場合

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置にドライバCDをセットします。
2. CPUブレードの画面において、コマンドプロンプトを起動します。
3. ネットワークドライバをインストールします。  
コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。

(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

```
install.bat□011
```

しばらくして“Finish”と表示されれば完了です。

**※続いてIntel®PROSetをインストールします。**

4. スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックします。
5. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。  
  
[<CD-ROMのドライブター>:¥APPS¥PROSet¥WIN2K]
6. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
7. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
8. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
9. [インストール]ボタンをクリックします。
10. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
11. システムを再起動してください。

### 4.3.3 TS クライアントからインストールする場合

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置にドライバCDをセットします。  
※TSクライアント画面内で、クライアント側のCD-ROMドライブ装置をネットワークドライブに割り当てることでも使用可能です。
2. TSクライアント画面において、コマンドプロンプトを起動します。
3. ネットワークドライバをインストールします。  
コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。

(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

```
install.bat□TS
```

しばらくして“Driver Installed”と表示されれば完了です。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

4. スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックします。
5. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。

```
[<CD-ROMのドライブレター>:\$APPS\$PROSet\$WIN2K]
```

6. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
7. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
8. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
9. [インストール]ボタンをクリックします。
10. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
11. システムを再起動してください。

#### 4.3.4 デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合

1. CPUブレードの[デバイスマネージャ]を起動します。
2. [その他のデバイス]または[ネットワークアダプタ]の[イーサネットコントローラ]へカーソルを合わせて、右クリックして[プロパティ]を選択します。  
[イーサネットコントローラのプロパティ]が表示されます。
3. [全般]タブの[ドライバの再インストール]ボタンをクリックします。
4. [デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。
5. [ハードウェアデバイスドライバのインストール]画面が表示されますので、[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。
6. [ドライバファイルの特定]画面が表示されますので、本製品添付のドライバCDをCD-ROMドライブ装置にセットし、[検索場所のオプション]の[場所を指定]を選択し(その他は選択しないでください)、[次へ]ボタンをクリックしてください。
7. [デバイスドライバのアップグレードウィザード] ダイアログで  
[<CD-ROMのドライブレター>:¥PR01000¥WIN2K]  
と指定し、[OK]ボタンをクリックしてください。
8. [ドライバファイルの検索]画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックしてください。
9. ファイルのコピーが開始されます。
10. [デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了]画面が表示されますので、[完了]ボタンをクリックしてください。  
  
※続いてIntel®PROSetをインストールします。
11. スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックします。
12. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。

[<CD-ROMのドライブター>:¥APPS¥PROSet¥WIN2K]

13. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
14. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
15. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
16. [インストール]ボタンをクリックします。
17. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
18. システムを再起動してください。

#### 4.3.5 DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合

DPM(DeploymentManager) Ver.2.1/Ver.3.0からのインストールについては、DPMの取扱説明書を参照してください。

“イメージビルダー起動”に必要な情報は以下になります。

1. [イメージビルダー起動]を起動し、[アプリケーションの登録]をクリックします。  
[アプリケーション名]には任意の名前を入力してください。  
(例)Install\_011
2. [コピーするフォルダ]の[フォルダ名]に、ドライバインストール環境のrootを以下のよう  
に指定して[追加]をクリックします。

<CD-ROMドライブ名>:¥

(例)D:¥

3. [セットアップ]の[セットアップコマンド名]に、ドライバインストール用バッチファ  
イル名を以下の様に指定します。

<CD-ROMドライブ名>:¥install.bat

(例)D:¥install.bat

4. [コマンドオプション]は何も指定しないでください。
5. DPM (Ver.2.1/3.0)の取扱説明書に従い、インストールしてください。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

DPMを使用される環境ではCPUブレードからインストールしてください。

以下はCPUブレードからインストールする場合の手順です。

6. スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプロー  
ラ]をクリックします。
7. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。

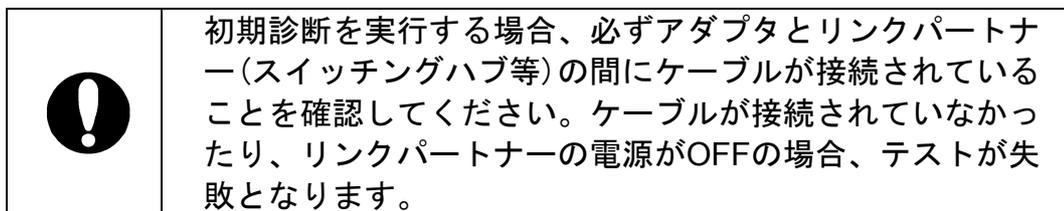
[<CD-ROMのドライブレター>:¥APPS¥PROSet¥WIN2K]

8. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次  
へ]ボタンをクリックします。
9. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択  
し、[次へ]ボタンをクリックします。

10. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
11. [インストール]ボタンをクリックします。
12. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
13. システムを再起動してください。

#### 4.3.6 アダプタの初期診断（推奨）

Intel®PROSetをインストールした後、Intel®PROSetを用いたアダプタの初期診断を実行することをおすすめします。(以下はすべてのインストール方法に共通の手順です)



1. [コントロールパネル]ウィンドウで[Intel®PROSet]アイコンをダブルクリックしてください。  
[Intel®PROSet] ダイアログボックスが表示されます。
2. [診断タブ]をクリックします。
3. [テストの実行]ボタンをクリックします。
4. ここでメッセージが表示されますので[はい(Y)]をクリックしてください。  
診断テストが実行されます。
5. テスト項目右側の“合格／失敗”が“1／0”と表示されれば正常です。

“合格／失敗”が“0／1”と表示された場合は、「5. トラブルシューティング」(27 ページ)に従って、再確認してください。

再確認後も、“合格／失敗”が“0／1”と表示された場合は、保守員または販売店にお問い合わせください。

### 4.4. WindowsServer 2003®をご使用の場合

本節では WindowsServer2003®をご使用の場合のドライバインストール手順を説明します。

まず、「4.4.1.オンボード LAN ドライバの更新と Intel®PROSet の削除」(18 ページ)に従ってオンボード LAN のドライバ更新および Intel®PROSet の削除を行います。

次に CPU ブレードに N8403-011 を取り付けます。この作業は「2.本体装置へのアダプタの取り付け」(3 ページ)に従ってください。

そして、N8403-011 ドライバをドライバ CD を使ってインストールします。

このとき、以下の方法でインストールできますので、管理運用形態に応じてインストール作業を実施してください。

- CPU ブレードからインストールする場合  
→「4.4.2.オンボード LAN ドライバの更新と Intel®PROSet の削除」(20 ページ)をご覧ください。
- TS クライアントからインストールする場合  
→「4.4.3.TS クライアントからインストールする場合」(21 ページ)をご覧ください。
- デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合  
→「4.4.4.デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合」(22 ページ)をご覧ください。
- DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合  
→「4.4.5.DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合」(24 ページ)をご覧ください。

	<p>アダプタを交換する場合は、一旦ドライバを削除してからドライバを再インストールしてください。</p> <p>なお、ドライバを削除してしまうと、プロトコルの情報が消えてしまいますので、削除の前にネットワーク情報を控えておき、ドライバの再インストール後、あらためて設定してください。</p>
---	---

	<p>N8403-011の取り付け後、システム起動時に以下のメッセージが表示された場合は[キャンセル]ボタンをクリックして閉じてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● [ディスクの挿入]ダイアログ</li><li>● [新しいハードウェア検出ウィザード]ダイアログ</li></ul>
---	--

#### 4.4.1 オンボード LAN ドライバの更新と Intel®PROSet の削除

本製品を実装する前にオンボード LAN のネットワークドライバのバージョンを確認し、必要に応じてドライバを更新します。また、Intel®PROSet/PROSetII がインストールされている場合には削除します。

##### 【オンボード LAN ドライバのバージョン確認手順】

1. [ローカルエリア接続のプロパティ]を表示させます。
  - ◆標準の[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックします。  
[コントロールパネル]が表示されますので、[ネットワーク接続]をクリックして、[ローカルエリア接続]をクリックします。
  - ◆クラシック[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]の順にクリックします。  
そして、[ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]を選択します。
2. [構成]ボタンをクリックします。[ネットワークアダプタのプロパティ]が開きます。
3. [プロパティ]を選択します。[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログが開きます。
4. [ドライバ]タブを選択し、バージョンを確認します。

以下のバージョンと同じ、もしくは新しいバージョンの場合はドライバを更新する必要はありませんので、【Intel®PROSet/PROSetIIの削除手順】に進んでください。

Express5800/410Ea・420Laの場合	バージョン:	<b>7.0.26.0</b>
Express5800/420Maの場合	バージョン:	<b>7.2.17.0</b>

##### 【オンボードLANドライバの更新手順】

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置に本製品添付のドライバCDをセットします。
2. CPUブレードの画面において、コマンドプロンプトを起動します。

3. コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。

(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

対象装置がExpress5800/410Ea・420Laの場合

```
install.bat□OBEL
```

対象装置がExpress5800/420Maの場合

```
install.bat□OBMA
```

しばらくして“Finish”と表示されれば完了です。

4. システムを再起動してください。

### 【Intel®PROSet/PROSetII の削除手順】

※Intel®PROSet/PROSetIIがインストールされていない場合は、削除の必要はありません。

1. スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
2. [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
3. [Intel®PROSet]または[Intel®PROSetII]ボタンを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
4. ダイアログボックスが表示されるので[はい]をクリックします。  
[Intel®PROSet]または[Intel®PROSetII]が削除されます。
5. すべてのウィンドウを閉じます。
6. システムを再起動してください。

続いてN8403-011のドライバをセットアップしますので、N8403-011アダプタをCPUブレードに取り付けてください。

取り付け作業は「2.本体装置へのアダプタの取り付け」(3ページ)の手順を参照して実施してください。

#### 4.4.2 CPU ブレードからインストールする場合

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置にドライバCDをセットします。
2. CPUブレードの画面において、コマンドプロンプトを起動します。
3. ネットワークドライバをインストールします。  
コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。  
(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

```
install.bat□011
```

しばらくして“Finish”と表示されれば完了です。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

4. エクスプローラを表示させます。
  - ◆標準の[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
  - ◆クラシック[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
5. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。  
  
[<CD-ROMのドライブレター>:\\$APPS\\$PROSet\\$WS03XP32]
6. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
7. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
8. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
9. [インストール]ボタンをクリックします。
10. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

11. システムを再起動してください。

#### 4.4.3 TSクライアントからインストールする場合

1. CPUブレードに接続されているCD-ROMドライブ装置にドライバCDをセットします。  
※TSクライアント画面内で、クライアント側のCD-ROMドライブ装置をネットワークドライブに割り当てることでも使用可能です。
2. TSクライアント画面において、コマンドプロンプトを起動します。
3. ネットワークドライバをインストールします。  
コマンドプロンプトにおいて、カレントディレクトリをCD-ROMドライブ装置に移動し、以下のコマンドを入力してEnterキーを押します。  
(下記コマンドラインの □ は半角スペースの入力を示します)

```
install.bat□TS
```

しばらくして“Driver Installed”と表示されれば完了です。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

4. エクスプローラを表示させます。
  - ◆標準の[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
  - ◆クラシック[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
5. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。  
  
[<CD-ROMのドライブレター>:\\$APPS\\$PROSet\\$WS03XP32]
6. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
7. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

8. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
9. [インストール]ボタンをクリックします。
10. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
11. システムを再起動してください。

#### 4.4.4 デバイスマネージャを利用して手動でインストールする場合

1. CPUブレードの[デバイスマネージャ]を起動します。
2. [その他のデバイス]または[ネットワークアダプタ]の[イーサネットコントローラ]へカーソルを合わせて、右クリックして[プロパティ]を選択します。  
[イーサネットコントローラのプロパティ]が表示されます。
3. [全般]タブの[ドライバの再インストール]ボタンをクリックします。
4. [ハードウェアの更新ウィザード]ダイアログボックスが表示されますので、[一覧または特定の場所からインストール(詳細)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ(その他は選択しないでください)、

[<CD-ROMのドライブレター>:¥PR01000¥WS03XP32]

と指定し、ドライバCDをセットしてから [次へ] ボタンをクリックしてください。

6. ファイルのコピーが開始されます。
7. [ハードウェア更新ウィザードの完了]画面が表示されますので、[完了]ボタンをクリックしてください。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

8. エクスプローラを表示します。
  - ◆標準の[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
  - ◆クラシック[スタート]メニューの場合

スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。

9. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。

[<CD-ROMのドライブター>:¥APPS¥PROSet¥WS03XP32]

10. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。

11. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

12. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。

13. [インストール]ボタンをクリックします。

14. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

15. システムを再起動してください。

#### 4.4.5 DPM(Ver.2.1/3.0)からインストールする場合

DPM(DeploymentManager) Ver.2.1/Ver.3.0からのインストールについては、DPMの取扱説明書を参照してください。

“イメージビルダー起動”に必要な情報は以下になります。

1. [イメージビルダー起動]を起動し、[アプリケーションの登録]をクリックします。  
[アプリケーション名]には任意の名前を入力してください。  
(例)Install\_011
2. [コピーするフォルダ]の[フォルダ名]に、ドライバインストール環境のrootを以下のよう  
に指定して[追加]をクリックします。

<CD-ROMドライブ名>:¥

(例)D:¥

3. [セットアップ]の[セットアップコマンド名]に、ドライバインストール用バッチファ  
イル名を以下の様に指定します。

<CD-ROMドライブ名>:¥install.bat

(例) D:¥install.bat

4. [コマンドオプション]は何も指定しないでください。
5. DPM (Ver.2.1/3.0)の取扱説明書に従い、インストールしてください。

※続いてIntel®PROSetをインストールします。

DPMを使用される環境ではCPUブレードからインストールしてください。

以下はCPUブレードからインストールする場合の手順です。

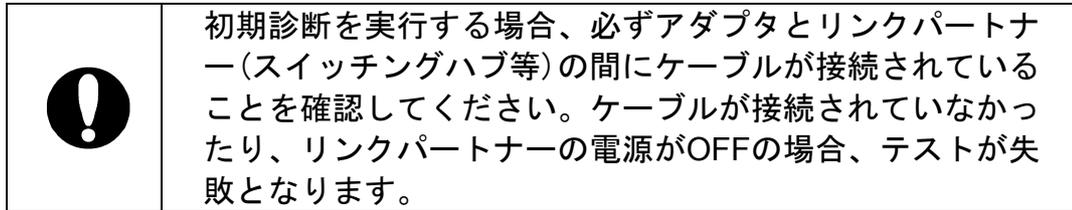
6. エクスプローラを表示させます。
  - ◆標準の[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
  - ◆クラシック[スタート]メニューの場合  
スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]の順にポイントし、  
[エクスプローラ]をクリックします。
7. 以下のフォルダに格納されている[PROSet.exe]をダブルクリックします。

[<CD-ROMのドライブレター>:¥APPS¥PROSet¥WS03XP32]

8. [Intel® PROSet for Wired Connection - InstallShield ウィザード]が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。
9. 使用許諾契約を読んで、同意するならば、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
10. [標準]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。
11. [インストール]ボタンをクリックします。
12. [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。
13. システムを再起動してください。

#### 4.4.6 アダプタの初期診断（推奨）

Intel®PROSetをインストールした後、Intel®PROSetを用いたアダプタの初期診断を実行することをおすすめします。(以下はすべてのインストール方法に共通の手順です)



1. [コントロールパネル]ウィンドウで[Intel®PROSet]アイコンをダブルクリックしてください。  
[Intel®PROSet] ダイアログボックスが表示されます。
2. [診断タブ]をクリックします。
3. [テストの実行]ボタンをクリックします。
4. ここでメッセージが表示されますので[はい(Y)]をクリックしてください。  
診断テストが実行されます。
5. テスト項目右側の“合格／失敗”が“1／0”と表示されれば正常です。

“合格／失敗”が“0／1”と表示された場合は、「5. トラブルシューティング」(27 ページ)に従って、再確認してください。

再確認後も、“合格／失敗”が“0／1”と表示された場合は、保守員または販売店にお問い合わせください。

## 5. トラブルシューティング

### 5.1. アダプタがネットワークに接続できない場合

#### ケーブルが正しく接続されていることを確認してください

ネットワークケーブルは両方（アダプタおよびリンクパートナー(ハブ・スイッチ等)）の LAN ポートにしっかりと取り付けられていなければなりません。

#### ケーブルを確認してください

ご使用のケーブルが SMF(シングルモードファイバ)ケーブルであったり、ケーブルに損傷があったり、極度に折れ曲がって設置されている場合、重いものの下敷きになっている場合通信できないことがあります。

また、ケーブル長が規定の距離を超えている場合にも通信できないことがあります。

この場合、別のケーブルを使用してみてください。

ケーブルの規定については「6.2.配線について」(31 ページ)を参照してください

#### 正しいドライバを使用していることを確認してください

アダプタに付属のドライバを使用していることを確認してください。

ドライバのファイル名には“E1000”が含まれます。(例:E1000NT5.SYS)

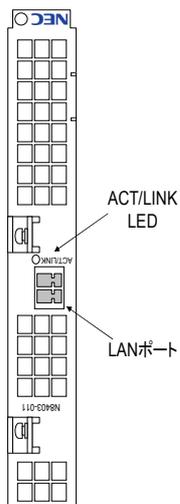


本体装置に標準添付されているネットワークドライバを使用する必要がある場合もありますので、本体装置添付のユーザーズマニュアルの指示に従ってインストールするドライバを選択してください。

#### アダプタのLEDの点灯状況を確認してください

N8403-011 アダプタは、LAN ポート付近に LED を備えています。この点灯状態により、リンク確立状態およびトラフィック状態が分かります。

以下に LED の点灯状況について記します。



	状態	意味
ACT/ LNK	点灯	リンク相手と正常に接続しています。 (Link 確立)
	点滅または 点灯	データの送受信があることを示しています。点滅周期はトラフィック量に応じて変化します。
	消灯	リンク相手との正常に接続できていません。(Link 未確立)

## 5.2. アダプタのテスト

本アダプタのドライバおよび Intel®PROSet をインストールすることによって、アダプタの自己診断テストが実行できるようになります。

※Intel®PROSet のインストール手順については「4. ドライバのインストールとアダプタの設定」(6 ページ)を参照してください。

### Windows 2000®/Windows Server 2003®の場合

Windows 2000®/Windows Server 2003®搭載の本体装置では、[コントロールパネル]で Intel®PROSet アイコンをダブルクリックして Intel®PROSet を実行します。診断の実行方法その他の情報については、Intel®PROSet ウィンドウの[ヘルプ]をクリックしてください。

	アダプタおよびリンクパートナーが MMF ケーブルで接続されていないと、ネットワークの診断はかならず「 <b>failed</b> 」となります。アダプタとリンクパートナーが MMF ケーブルで接続された状態で実行してください。
---	--

### 5.3. 一般的な障害とその対処方法

#### **診断で“ Not enabled by BIOS ”が通知される**

- PCI BIOS がアダプタを正常に設定していません。  
「6.1.PCI インストレーションのヒント」(30 ページ)を参照してください。

#### **ドライバの読み込み時に本体装置がハングする**

- PCI BIOS の割り込み設定を変更してください。  
「6.1.PCI インストレーションのヒント」(30 ページ)を参照してください。

#### **診断はパスするが、コネクションが落ちたりエラーが発生する**

- 本ボードの接続には、MMF(マルチモードファイバ)ケーブルを使用してください。また、ケーブルがしっかりと固定されていることを確認してください。

#### **リンクLEDが点灯しない**

- ネットワークドライバが読み込まれていることを確認してください。
- アダプタおよびリンクパートナー上の接続状態をすべて確認してください。
- リンクパートナー上の別のポートを使用してみてください。
- アダプタとリンクパートナー間のケーブルのタイプが正しいことを確認してください。本アダプタには MMF ケーブルを使用します。
- LAN ポートに異物が入っていないか確認してください。

#### **原因不明の理由でアダプタの動作が停止する**

- Intel®PROSet の診断機能を実行してください。
- アダプタを装着し直してみてください。
- ドライバファイルが壊れているか削除されている可能性があります。ドライバを削除して再インストールしてください。

以上の項目を確認したにもかかわらず、問題が解決しない場合は、本アダプタに何らかの故障が発生している可能性があります。弊社または本製品をお買い求めの販売店までお問い合わせください。

## 6. 技術情報

### 6.1. PCI インストールのヒント

PCI は起動するたびにアドインカードを自動的に設定するように設計されています。PCI は起動時にネットワークアダプタの I/O アドレスと IRQ レベルを設定します。これらの値は、アダプタソフトウェアでは変更できません。本体装置の起動時に障害が発生する場合は、さらに設定が必要な場合もあります。

このような本体装置では、本体装置の PCI BIOS 設定ユーティリティを使ってマニュアル設定が可能です。本体装置のマニュアルをご覧ください。BIOS 設定の一部の検証または変更が必要なことがあります。

PCI に関する一般的な対処方法を次に示します。

- **PCI BIOS のアップデート**

最新の PCI システム BIOS を使用すると、PCI 設定の問題を是正できることがあります。本体装置の製造元に連絡し、最新の BIOS バージョンがあるかどうかを問い合わせてください。

## 6.2. 配線について

### 1000BASE-SX仕様

本ボード、IEEE802.3z 規格に準拠した 1000BASE-SX インタフェイスを持ち、2本1組の MMF（マルチモードファイバ）ケーブル配線上での全二重 1000Mbps 通信をサポートしています。1本は送信用で、もう1本は受信用です。

1000BASE-SX での最大接続距離は MMF ケーブルのコア径の種類によって異なります。下表を参照してください。

コア径	最大接続距離
62.5 $\mu$ m	275m
50 $\mu$ m	550m

また、N8403-011 の LANポートは LCコネクタですので、LCコネクタに対応したMMFケーブルをお使いください。 N8403-011 の LANポートには「LCコネクタ以外のMMFケーブルおよび、SMFケーブル」は使用できません。



N8403-011  
1000BASE-SX 接続ボード  
取扱説明書

2004年2月初版

日本電気株式会社  
東京都港区芝5丁目7番1号  
TEL(03)3454-1111 (大代表)

この取扱説明書は再生紙を使用しています

856-123776-201-A



\*856-123776-201- AW\*